

平成28年度 第2回

三重県伊勢志摩サミット推進本部会議

事項書

日時 平成28年5月17日(火)

9:10~9:30

場所 プレゼンテーションルーム

1 各委員会、各部局からの報告

(1) サミット開催時の体制について【資料1】

(2) ヒロシマ・ナガサキ原爆展について(戦略企画部)【資料2-1】

(3) 伊勢志摩サミット受動喫煙ゼロ宣言について(医療対策局)【資料2-2】

2 伊勢志摩サミット推進局からの報告

(1) 公式行事等について【資料3】

(2) 国際メディアセンターについて【資料4】

(3) ジュニア・サミットの開催結果について【資料5】

(4) 国際理解・国際交流について【資料6】

(5) サミット開催に伴う住民への影響について【資料7-1、7-2、7-3】

(6) サミット終了時の県民等へのメッセージ発信について【資料8】

(7) 協賛、応援、寄附の申込状況等について【資料9】

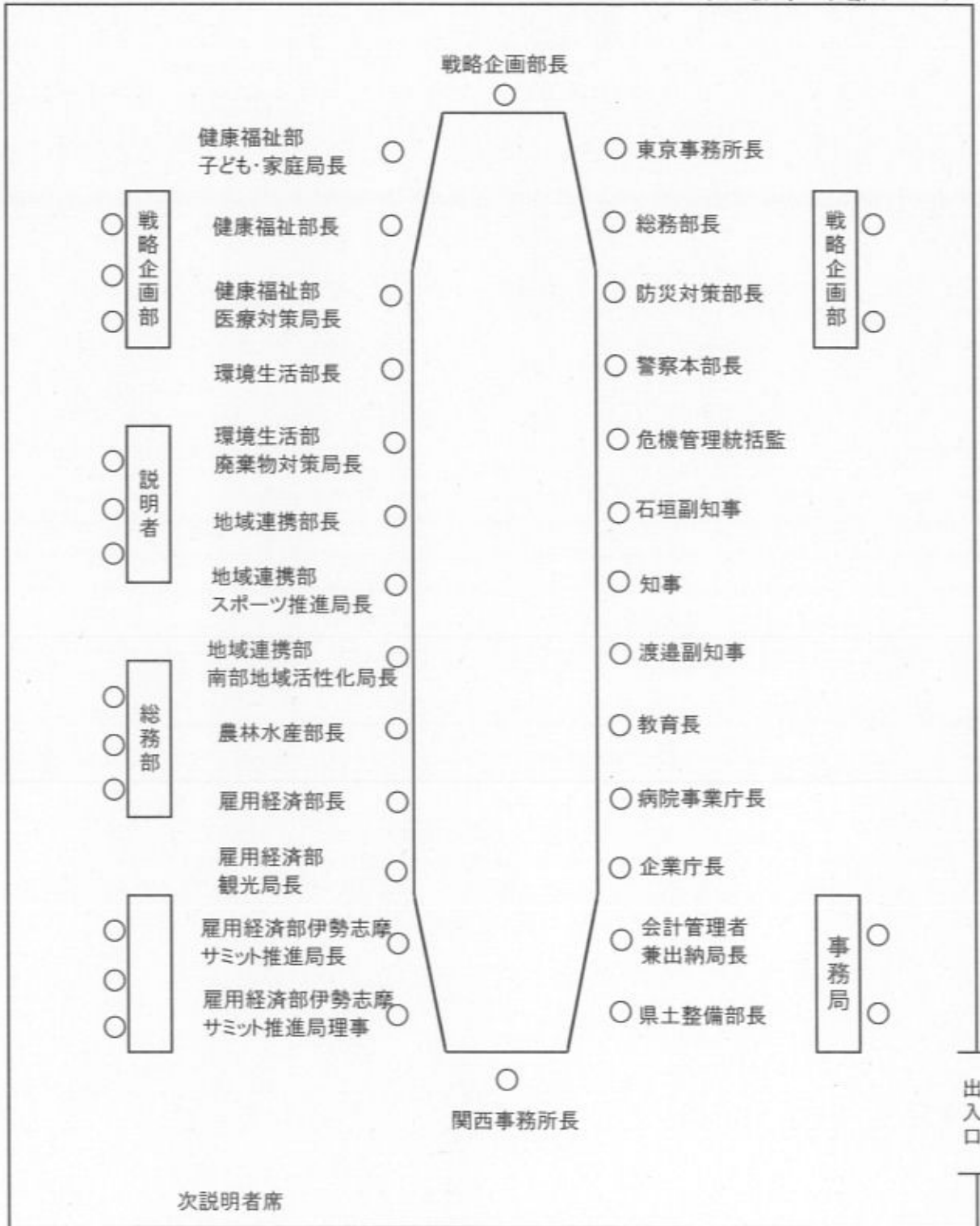
(8) その他

・伊勢志摩サミット開催に向けた全体のスケジュール【資料10】

【配布資料】

- ・資料1：サミット開催時の体制について
- ・資料2-1：ヒロシマ・ナガサキ原爆展
- ・資料2-2：三重県は伊勢志摩サミットでの受動喫煙ゼロをめざして取り組んでいます
- ・資料3：公式行事等について
- ・資料4：国際メディアセンターについて
- ・資料5：ジュニア・サミットの開催結果について
- ・資料6：国際理解・国際交流について
- ・資料7-1：住民懇話会等の開催結果について
- ・資料7-2：サミット開催に伴う規制等について
- ・資料7-3：サミット開催に伴う県内学校における授業等の取扱いについて
- ・資料8：サミット終了時の県民等へのメッセージ発信について
- ・資料9：協賛、応援、寄附の申込状況等について
- ・資料10：伊勢志摩サミット開催に向けた全体のスケジュール

平成28年度第2回伊勢志摩サミット推進本部会議(5月17日)座席表
 プレゼンテーションルーム



平成28年5月17日
伊勢志摩サミット推進局
サミット総務課

サミット開催時の体制について

サミット開催時には、三重県伊勢志摩サミット推進本部の下、雇用経済部伊勢志摩サミット推進局、防災・危機対策委員会、保健・医療対策委員会、県土整備部（以下、主な関係部局等）をはじめ、県庁内の各部局が連携して、対応することとしている。

主な関係部局等においては、総勢約 350 名がサミット開催時にサミット関連業務を行う予定。また、開催地である志摩市においては、約 90 名の職員がサミット関連業務を行う予定。

1 伊勢志摩サミット推進局

(1) 職員数

100名

【内訳】

- ・ 県職員 69 名（専任 36 名、兼務・併任 21 名、動員 12 名）
- ・ 国職員 4 名（外務省、経済産業省、環境省、東海財務局）
- ・ 県警察職員 2 名
- ・ 市町職員 5 名（伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町）
- ・ 企業 20 名

(2) 勤務地・主な業務内容 ※5月25日から24時間体制

- ・ HOWA ビル

主な業務内容：県庁内各部との調整・情報収集、報道対応等

- ・ 現地事務所（約 20 名）

主な業務内容：緊急対応、外務省との連携情報収集、三重情報館運営、インフォメーションセンター運営等

2 防災・危機対策委員会（防災対策部）

(1) 目的

サミット開催期間中の防災対策を図る

(2) 職員数

約 65 名

(3) 勤務地等

- ・ 県庁 約 40 名 ※5月19日から24時間体制を増強（宿日直増員）
- ・ 消防特別警戒対応 約 25 名

※消防職員や消防庁職員等で構成する統括警戒本部等に職員を配置

3 保健・医療対策委員会（健康福祉部、環境生活部、企業庁、病院事業庁）

(1) 目的

サミット開催期間中の保健医療対策を図る

(2) 職員数

約 48 名（委託職員 26 名除く）

(3) 所属等 ※5月25日から24時間体制

- ・ 救急医療対策班 約 18 名

（地域医療推進課、健康福祉部各課・事務所、病院事業庁）

※厚生労働省の現地医療対策本部に職員を配置

- ・ 食品衛生対策班 6 名

（食品安全課 2 名、保健所最大 4 名（24 時間連絡体制））

- ・ 感染症・医薬品対策班 4 名

（薬務感染症対策課 1 名、保健所最大 3 名（24 時間連絡体制））

- ・ 水道対策班 18 名

（大気・水環境課 1 名、水道事業課 2 名（5 月 19 日～）、南勢水道事務所 2 名（5 月 19 日～）、その他水道事務所 12 名（北勢・中勢・水質）
南勢志摩地域活性化局環境室 1 名）

※ 上記のほか、南勢水道事務所においては委託職員 12 名、その他水道事務所では委託職員 14 名が 24 時間体制で施設巡視等を実施

- ・ 総務班 2 名（健康福祉総務課）

4 県土整備部

(1) 目的

サミット開催中に道路河川港湾等のパトロールや緊急時の対応を図る

(2) 職員数

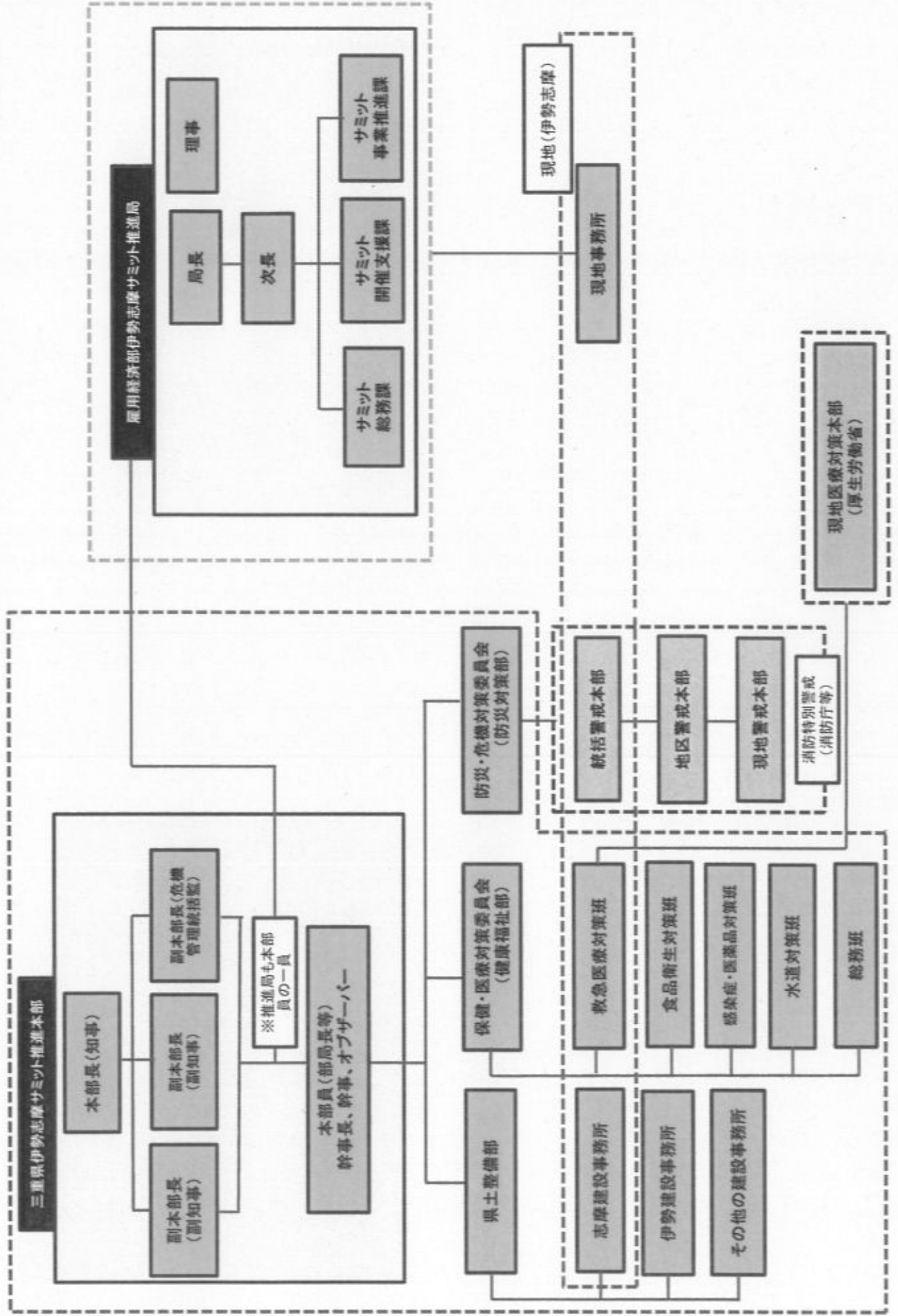
約 144 名

(3) 勤務地等 ※5月20日から24時間体制

- ・ 県庁 約 20 名
- ・ 伊勢建設事務所 約 39 名
- ・ 志摩建設事務所 約 43 名
- ・ その他建設事務所約 42 名

サミット開催時の体制(平成28年5月17日時点)

別紙



浴衣のブラウス
田辺フジ氏寄贈



ロザリオ

ヒロシマ・ナガサキ原爆展

Hiroshima-Nagasaki Atomic Bomb Exhibition

期間・2016年5月22日(日)~29日(日) 9時~17時

場所・伊勢市観光文化会館 2階展示室 伊勢市岩瀬1-13-15

主催・広島市、長崎市

共催・三重県、伊勢市

協力・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

入場
無料



8時15分で止まった時計
川越明人氏寄贈



三輪車
岡谷信男氏寄贈



開催にあたって

1945年8月、広島・長崎両市は、それぞれ一発の原子爆弾により一瞬にして廃墟と化し、その年の末までに、幼子からお年寄りまで21万人を超える尊い命が奪われました。かろうじて生き延びた被爆者の方々も、人生を大きく歪められ、心身の後遺症による耐え難い苦しみは、70年以上経った今日でも続いています。

人類は、世界中を巻き込んだ戦争を2度経験した今もなお、争いを続けています。1万5千発を超える核兵器が存在し、いまだに核実験を続けている国もある中、世界各地で紛争やテロが頻発し、全ての国と市民の安全が脅かされています。

こうしたときだからこそ、核兵器の危険性の認識と、平和を希求するヒロシマ・ナガサキのメッセージを国内外に広く発信する必要があります。

展示会では、70年以上前のあの瞬間、自らの死を自覚することなく命を絶たれた犠牲者の遺品を始め、あの日、広島・長崎の青空に不気味に立ち上った巨大なきこの雲の下で何があったのか、を実物資料と写真パネルを中心に紹介しています。

どうか、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という被爆者の心の奥底からの思いを聴き、被爆の実相に直接触れてください。

そして、「絶対悪」である核兵器の非人道性の認識をより一層深め、平和の尊さについて改めて考え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて、新たな一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いです。

被爆体験証言(無料)

日時／5月28日⑤ 11時半～、14時半～
場所／伊勢市観光文化会館 4階 会議室

被爆体験記朗読会(無料)

日時／5月28日⑤ 10時～、13時～
場所／伊勢市観光文化会館 4階 会議室

(所要時間はいずれも約1時間)

1945年8月9日午前11時2分、長崎
撮影／米軍

お問い合わせ

広島平和記念資料館 啓発課

広島市中区中島町1-2 Tel.082-242-7828 Fax.082-247-2464 <http://www.pcf.city.hiroshima.jp>

三重県は伊勢志摩サミットでの受動喫煙ゼロをめざして取り組んでいます

伊勢志摩サミット受動喫煙ゼロ宣言

三重県は、美しい自然や豊かな文化にあふれ、古くからお伊勢参りに訪れる多くの人々をもてなしてきた歴史があります。私たち三重県民はその心を現在も継承し、国内外から三重県に来訪される方をおもてなししています。

すべての人々が健康で幸せに過ごせることは三重県民共通の願いです。しかしながら、受動喫煙防止は個人の努力だけではかなうのではなく、環境を整えることも必要であり、受動喫煙防止への取組が求められます。

このたび伊勢志摩サミットが開催されるにあたり、県民・事業者等の協力を得ながら、この地域を訪れる人に快適な環境を提供することをここに宣言するとともに、このおもてなしの精神が2020年の東京オリンピック・パラリンピック等国際的なイベントなどに引き継がれていくよう三重の地から発信していきます。

- 一、サミット期間中、地元の理解・協力を得ながら、おもてなしの精神のもと、伊勢志摩地域を訪れる人に快適な環境を提供します。
- 二、喫煙者に配慮しながら、受動喫煙を避けることができる環境整備を行うため、わかりやすい表示を推進し、受動喫煙を防止します。
- 三、受動喫煙が及ぼす健康への影響や受動喫煙防止に関する情報について広く県民に周知します。
- 四、サミット終了後もこの取組を一過性で終わらせることなく、地域の協力を得ながら取組を継続していきます。

平成 28 年 4 月

三重県知事 鈴木 英 敬



伊勢志摩サミット
三重県民会議

受動喫煙防止のため協力いただける施設等で、喫煙環境の表示をしています

表示種類は4種類!

三重県は、伊勢志摩サミット受動喫煙ゼロ宣言をしています。



受動喫煙防止にご協力下さい

禁煙

No smoking inside.
本施設内全面禁煙
本施設内全面禁煙
시설내 전면금연
施設内は全面禁煙です。

三重県は、伊勢志摩サミット受動喫煙ゼロ宣言をしています。



喫煙可能

Smoking allowed
未設有禁煙席或禁煙區域
未設有禁煙席或禁煙區域
금연석, 스페이스는 마련되어 있지 않습니다
禁煙席や禁煙スペースはありません。

三重県は、伊勢志摩サミット受動喫煙ゼロ宣言をしています。



受動喫煙防止にご協力ください

完全分煙

There is a wall between smoking and non-smoking areas.
吸煙區域和禁煙區域用墻壁等隔離
吸烟区域与禁烟区域用墙壁等隔开
흡연스페이스는 격리되어 있습니다
喫煙と禁煙エリアは壁等で区別されています。

三重県は、伊勢志摩サミット受動喫煙ゼロ宣言をしています。



受動喫煙防止にご協力ください

空間分煙

There is no wall between smoking and non-smoking areas.
吸煙區域和禁煙區域未用墻壁等隔離
吸烟区域与禁烟区域未用墙壁等隔开
흡연스페이스는 격리되어 있지 않습니다
喫煙と禁煙エリアは壁等で区別していません。

問い合わせ先:三重県健康福祉部医療対策局健康づくり課 がん・健康対策班
TEL059-224-2294 FAX 059-224-2340

平成28年5月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

公式行事等について

1 伊勢志摩サミット開催日時

2016年5月26日(木)、27日(金)

2 首脳会議場

志摩観光ホテル

※ただし、「ザ クラシック」、「ザ ベイスイート」をどのように使用するかについては非公表。

3 首脳の移動

G7各国首脳の効率的かつ安全な移動のために、中部国際空港と志摩市との間をヘリで移動する方向で調整中であるが、荒天の場合には、ヘリでの移動に替えて陸路での移動が想定されている。

4 国際メディアセンター(IMC)

「資料4」のとおり

5 配偶者プログラム

具体的な日程及び訪問場所は現在調整中。

配偶者の方々に三重を通じて日本を感じていただくべく、「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」をテーマに、訪問いただきたい場所、実施していただきたい内容を三重県として選定し、10月9日に外務省(齋木事務次官)に提案。

なお、首脳会議が一泊二日という日程であり、配偶者プログラムもその期間内での実施となることから、伊勢志摩地域以外への訪問は難しい状況。

6 ジュニア・サミット

「資料5」のとおり

7 アウトリーチ

○国：7ヶ国

チャド、インドネシア、スリランカ、バングラデシュ、パプアニューギニア、ベトナム、ラオス

○国際機関：5機関

国際連合、国際通貨基金(IMF)、世界銀行、経済協力開発機構(OECD)、アジア開発銀行(ADB)

8 各国首脳等と県民との交流について～「世界との絆づくり」～

伊勢志摩サミット開催前後に、来県される各国首脳等や配偶者に県内市町等を訪問していただき、地域住民と交流していただけるよう、知事が大使館を訪問し働きかける等、実現に向けた取組を行っている。

9 各国先遣隊歓迎夕食会について

各国先遣隊（本国政府の関係者がサミットの準備状況確認のために来県するもの）に対し、三重の食材を生かした料理やお酒、伝統芸能等の披露等によるおもてなしで慰労するとともに、三重の魅力を発信し本国に伝えていただくため、夕食会を開催した。なお、この機会を捉え、「世界との絆づくり」を実現するための働きかけも行っている。

参考

上述した首脳会議の日程及び会議場、配偶者プログラムの日程、首脳等の移動等については、警備上の観点から、事前には公表されないことも想定される。

また、外務省としては先遣隊の視察を非公表で進めると聞いているため、先遣隊日程の一部である夕食会についても非公表としている。

平成28年5月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課・事業推進課

国際メディアセンターについて

1 国際メディアセンター（IMC）と関連施設について

(1) 概要

伊勢志摩サミットを取材する報道関係者のための施設である国際メディアセンター（以下、IMC）は、三重県営サンアリーナに日本政府が設置し、サンアリーナの既存施設とサンアリーナ近くに建設される仮設施設で構成される。

IMCは、報道関係者の作業スペースや国際放送センター等を備えるサミット取材のための総合施設であり、取材拠点としての機能のみならず、広報スペースやダイニングスペース等を備えた仮設施設（以下、アネックス）（鉄骨造2階建て延べ床面積約8,000㎡）が併設される。

(2) 開設期間

平成28年5月25日（水）8:00～5月28日（土）12:00
（24日（火）はプレオープン日（8:00～22:00）
（22日（日）に完成式及び完成記念祝典を開催）

(3) 関連施設

○サブメディアセンター1（SMC1）

賢島付近に設置され、議長会見場も併設される。また、賢島で行われる公式行事及び二国間会談を取材する代表取材記者のための待機スペースが設置される。

○サブメディアセンター2（SMC2）（各国首脳会見場）

志摩市内に設置され、IMCから無料シャトルバスが運行される予定。

(4) 参考事項

邦人・海外プレスを対象にシャトルバスが、外務省からの委託でIMC運営会社によって運営される予定である。

2 日本政府の情報発信スペース（Exhibition）

○テーマ：「世界の抱える諸課題に対するソリューション」

○概要

面積：約1,000㎡

展示内容：医療・介護ロボット（少子化問題対応）、質の高いインフラの輸出事例（新興国への火力発電の技術提供や雇用創出）、MRJ等を実物・映像・模型・パネル等で紹介予定。また、屋外では次世代自動車の展示・試乗を行う。

3 三重情報館（Exhibition of Mie）について

(1) 運営期間

平成28年5月25日（水） 8:00～22:00
5月26日（木）、27日（金） 6:00～22:00
5月28日（土） 6:00～12:00

※5月24日（火）にプレオープンを行う。説明者の配置や実演等を行わないが、内覧は可能。（ただし、政府発行の取材記者証を所持する者に限る）

(2) 設置場所 IMC アネックス1F北東側(ダイニング横)

※動線は、エントランスから政府広報スペースを通り、ダイニングを経て、三重情報館を通って、エントランスに抜ける。

※床面積：約350㎡

(3) 展示内容

○基本コンセプト

「伝統と革新～“和”の精神～」

三重の歴史、多様で豊かな文化、自然、食、産業等における「伝統と革新」を「和の精神」という切り口で捉え、「静と動」の織り成す三重の多様な魅力を発信する。

○主な展示内容

- ①大型スクリーン映像による「伊勢神宮の精神性」を中心とした「自然の恵みへの感謝の心」、「ものづくりへの敬愛と情熱の心」、「明日へつなぐ三重県民の心」の発信
- ②交流を生み出すメインステージの設置による海女の講話や忍者の紹介等、様々な実演による発信
- ③三重のお茶、お酒、餅菓子等の振る舞いによる三重ならではの「おもてなし」
- ④国の伝統的工芸品に指定された三重の伝統工芸品を中心とした、伝統工芸士による実演や体験、実物展示等
- ⑤三重の企業から応募いただいた革新的技術の実物展示

○その他

三重の情報や思い出を持ち帰っていただけるよう、携帯端末等を活用した情報提供を行います。

4 IMCアネックスのサミット終了後の公開について

(1) 目的

サミットの現場を、次世代を担う県内小・中・高等学校生をはじめ、県民に肌で感じてもらうことを目的に、サミット終了後に期間限定でIMCアネックスを部分的に公開する。

(2) 公開する施設

IMCアネックス1階(政府広報スペース、三重情報館、ダイニングスペース)
IMCアネックス2階(ブリーフィングルーム)

(3) 対象・公開期間等

○県内小・中・高・特別支援学校の学生

公開期間：平成28年5月30日(月)～6月10日(金)(平日のみ)9:00～16:00

※平成28年4月12日(火)～25日(月)まで募集を行ったところ、県内の小・中・高・特別支援学校から約2,100名の応募があった。

○子どもふるさとサミット参加者及び三重の高校生サミット参加者

公開期間：平成28年6月4日(土)9:00～12:00

※平成28年4月21日(木)～5月12日(木)まで募集を行ったところ、保護者を含めて約90名の応募があった。

○一般公開

公開期間：平成年6月4日(土)13:00～16:00、5日(日)9:00～16:00

申込期限：平成28年5月13日(土)～5月25日(水)まで(事前申込制・先着順)

(4) 公開の方法

1グループ40名程度を基本とし、係員の誘導により公開部分を案内する。(所要時間1時間程度を予定)

平成28年5月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

ジュニア・サミットの開催結果について

1 「2016年ジュニア・サミットin三重」の概要

ジュニア・サミットは、伊勢志摩サミットの関連行事として、国が主催し、G7各国から15～18才の若者28名が集まり、世界が直面する課題について、青少年の視点から英語で議論を行った。

今回、三重県が提案した「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」を討議テーマとして議論し、意見をまとめ、成果文書『桑名ジュニア・コミュニケ』を安倍内閣総理大臣に届けた。また、各国参加者は、帰国後、各国首脳に成果文書を届けることとなっている。

伊勢志摩サミット三重県民会議では、開催期間中、ジュニア・サミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達と交流する機会を提供した。

2 開催内容

(1) 開催期間：平成28年4月22日から28日まで

<プログラム>

4月21日(木) 桑名市到着

4月22日(金) 開会式、会議

4月23日(土) 会議、討議に資する視察、交流行事

4月24日(日) 会議

4月25日(月) 県内分散型体験・交流行事

4月26日(火) 会議、成果発表会・三重県送別ランチ、東京に移動

4月27日(水) 交流行事、安倍内閣総理大臣に成果文書提出

4月28日(木) 都内視察

4月29日(金) 東京出発

(2) 主会場：ナガシマリゾート(桑名市長島町浦安)

(3) 主催：外務省、共催：伊勢志摩サミット三重県民会議

3 討議及び成果文書『桑名ジュニア・コミュニケ』の概要

(1) 討議

参加者は、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」をメインテーマに、次の4つのサブテーマごとに分科会形式で議論を行い、その結果を成果文書『桑名ジュニア・コミュニケ』にとりまとめた。

(2) 成果文書『桑名ジュニア・コミュニケ』

①気候変動と脱炭素化

気候変動に起因する様々な課題を解決するために、炭素税、排出量取引制度を活用したカーボン・プライシングを促進すること、再生可能エネルギー発電を推奨することの重要性が強調された。また、都市部のインフラ開発を

通じた温室効果ガスの低減についても触れられ、諸取組の実現に向けた日本のリーダーシップに期待する旨の議論がなされた。

②経済格差と包括的な経済成長

先進国と発展途上国の格差是正を図るためにどのような対策が可能か議論された。この観点から、先進国から途上国への技術移転に着目し、先進国の企業に、技術移転を促すためのインセンティブの付与の可能性等について提案された。また、汚職と租税回避の課題も取り上げられ、制度改革を通じた対策が必要との提案がなされた。

③人材育成

すべての子供達の初等・中等教育へのアクセスを可能にすることを念頭に、教育の質向上のための国際的な連携や、教育インフラ、教師のレベルの向上、先進国と途上国間の学校単位でのノウハウの共有を促す制度について提案がなされた。

④ジェンダーによる格差の克服

日本がリーダーシップを発揮している女性のエンパワメントの分野について、女性の社会進出を促すために、企業の働きやすさを採点形式で可視化していくことや、途上国においては基本的な女子教育の底上げを図るために、経済的支援も含めた制度設計をしていくこと等が提案された。

4 討議に資する視察の概要

4月23日、討議テーマ「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」に基づき、環境保全と経済成長を両立し、健全な環境を次世代に継承し、持続可能な発展をする方策について議論するため、参加者及び付添人が、以下の3施設を視察した。

(1) 赤須賀漁業協同組合

漁業者から、自然資源を持続的に利用するための干潟の環境調査や稚貝放流、漁獲量の制限等の取組を伺った。

(2) 四日市公害と環境未来館

県立四日市高等学校の生徒や未来館職員、ICETT職員から、四日市公害の歴史や教訓を通じて、産業発展と環境保全を両立したまちづくりや環境保全技術の海外移転等の取組を伺った。

(3) NTN株式会社先端技術研究所

二酸化炭素発生の削減や低炭素化社会実現のための自然エネルギー循環型モデルや省エネルギー技術の取組を伺い、エネルギーパークを視察した。

5 分散型体験・交流行事の概要

4月25日、ジュニア・サミット参加者が、県内4コースに分散して各地を訪れ、三重の美しい自然や豊かな伝統・文化等を体験・体感するとともに、県民との交流を深めた。

当日、県内高校生が各コース7名ずつ参加し、各訪問先を案内するとともに、バス移動時間を利用し交流を深めた。

【Aコース】

①御在所ロープウェイ（菰野町）

ロープウェイで伊勢平野や御在所岳を眺める空中散歩を楽しむとともに、山上公園では、雄大な展望と自然を楽しみながら散策した。

②鈴鹿サーキット（鈴鹿市）

鈴鹿高等学校書道部による鈴鹿墨を用いた書道パフォーマンスの披露の後、伊勢型紙彫刻体験を行った。国際レーシングコースでの最先端EVマシン「サーキットチャレンジャー」の運転体験、マーシャルカーに同乗してのコース走行、バイクのデモレースの見学を行った。

③関宿（亀山市）

関宿を散策し、玉屋資料館において、地元小学生による祭り囃子演奏や、亀山紅茶とお菓子によるおもてなしを受けながら、地元小中学生や地域住民と交流した。

【Bコース】

①深野だんだん田（松阪市）

日本棚田百選に選ばれている「深野だんだん田」を見学し、伝統的な土木工学技術や棚田の機能を学ぶとともに、松阪牛肥育農家を見学し、実際にブラッシングや触れる体験を行った。

②まごの店（多気町）

三重県立特別支援学校玉城わかば学園生徒の太鼓演奏による歓迎を受けた後、三重県立相可高等学校食物調理科の生徒とだし巻き卵や巻き寿司、鰹節削りの体験を行い、食物調理科の生徒が作った昼食を楽しみながら交流した。

③一身田寺内町 専修寺（津市）

国の重要文化財に指定されている専修寺内の御影堂を見学するとともに、庭園・雲幽園内を散策し、茶室・安楽庵を見学した。

【Cコース】

①伊賀流忍者博物館（伊賀市）

忍者衣装に着替えて、伊賀上野城の高石垣や上野公園を散策した後、忍者屋敷で様々なからくりを見学した。また、迫力ある忍者ショーを見学し、一人3枚ずつ手裏剣打ち体験を行った。

②赤目四十八滝（名張市）

不動滝、千手滝、布曳滝を見学しながら溪谷内を散策するとともに、日本サンショウウオセンターでは、サンショウウオについて飼育員から説明を受けた後、実際にオオサンショウウオに触れる体験を行った。

【Dコース】

①伊勢神宮（伊勢市）

式年遷宮記念せんぐう館を見学するとともに、伊勢神宮（内宮）の視察を行った。

②いつきのみや歴史体験館（明和町）

さいくう平安の杜の復元建物を見学し、いつきのみや歴史体験館にて、平安装束の試着や盤すごろく等、平安時代の遊びを体験した。

6 桑名市交流行事「KUWANA NIGHT」

4月23日夜、ジュニア・サミット桑名市民会議が主催する交流行事「KUWANA NIGHT」がなばなの里で実施され、2,000余名の桑名市民が出迎える中、参加者は、石取祭の祭車を見学したり、太鼓や鉦の打ち鳴らしを体験するとともに、ハマグリ等のバーベキュー料理、ペゴニアガーデンやイルミネーションの見学を楽しんだ。

7 ジュニア・サミットへの県民参加

(1) 県内の中・高校生等の参加

サミットの開催を一過性のものとせず開催の経験を「明日へつなぐ」ため、今回のジュニア・サミットに、一人でも多くの次代を担う子どもたちが参加する機会を設ける取組を展開した。

①日本代表参加者

- ・稲葉 陽樹 県立津高等学校 3年生 津市在住
- ・加藤 杏弥 県立川越高等学校 3年生 四日市市在住
- ・上堀内 陸王 私立東海高等学校(愛知県) 2年生 桑名市在住
- ・藤山 春衣 県立四日市高等学校 3年生 四日市市在住

②討議に資する視察及び県内分散型体験・交流行事への参加(案内・交流)

- ・討議に資する視察⇒県立四日市高等学校 9名
- ・県内分散型体験・交流行事⇒各地域の高校生(4コース×7名) 28名

③おもてなし

- ・県内農業高校等による花のプランターづくり(180個)
県立四日市農芸高等学校、県立久居農林高等学校、県立相可高等学校、
県立伊賀白鳳高等学校、県立明野高等学校、私立愛農学園農業高等学校
141名
- ・開催日程中のハンドベル演奏
私立セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校 32名
- ・県内分散型体験・交流行事でのおもてなし
鈴鹿墨のパフォーマンス 私立鈴鹿高等学校書道部 14名
まごの店での昼食のふるまい 県立相可高等学校食物調理科 19名
太鼓演奏 県立特別支援学校玉城わかば学園 31名
- ・お別れセレモニーでの吹奏楽演奏等
県立白子高等学校吹奏楽部 30名
スタンド花作成 県立久居農林高等学校 3名
- ・参加者用名札(伊賀組紐)の作成
県立杉の子特別支援学校石薬師分校、県立特別支援学校伊賀つばさ学園
19名
- ・マイ箸袋(さをり織り)の作成
県立稲葉特別支援学校、県立特別支援学校西日野にじ学園 25名
- ・ウェルカムメッセージの作成(開発したまごごろ商品とともに)
県立相可高等学校生産経済科(万協製薬株式会社の協賛あり) 5名

(2) 県民の参加

分散型体験・交流行事での各地案内やおもてなし、交流や、討議・宿泊会場におけるサポートデスク設置(看護師・臨床心理士の配置、リフレッシュコーナーの設置等)等、県民や企業、団体の参加・協力を得て実施した。

平成28年5月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

国際理解・国際交流について

1 多様な主体における国際理解・国際交流事業について

(1) 目的

伊勢志摩サミットの開催を契機として、サミット参加国について学ぶ機会を設け、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深める機会を提供する。特に次世代を担う子どもたちが多文化を理解し、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることを目指す。

(2) 事業の概要

①国際理解・国際交流プログラム

県民の皆様へ、サミット参加国について理解や交流を深めていただくため、園、学校、市町、企業、団体等、多様な主体が行う授業や講座等に、サミット参加国出身の在住外国人や留学生等、サミット参加国に詳しい方々を講師として派遣し、「国際理解・国際交流プログラム」を実施した。

○平成27年度「国際理解・国際交流プログラム」の実施結果（延べ回数）

申込 196 回分（H27. 12. 21 申込終了）・実施 91 回分（H28. 3. 16 終了）

	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	計
幼稚園・保育所	12	5	1	7	0	25
小学校	15	10	3	5	1	34
中学校	4	1	0	5	0	10
高等学校	2	0	1	4	0	7
特別支援学校	3	1	0	1	0	5
一般	4	0	3	3	0	10
計	40	17	8	25	1	91

②外務省事業「イチからわかる！サミット塾」の支援

外務省において実施する「イチからわかる！サミット塾」では、外務省の若手職員が講師となり、サミットや外交についてわかりやすい授業を、小・中・高等学校で実施した。県民会議では、当事業の取りまとめ等の支援を行うとともに、一部共催を行った。

○平成27年度「イチからわかる！サミット塾」の状況結果(校数)

申込 34 件 (H27. 11. 30 申込終了)・実施 29 校 (H28. 3. 16 終了)

	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	計
小学校	5	1	1	8	0	15
中学校	2	0	0	3	1	6
高等学校	2	1	3	1	1	8
計	9	2	4	12	2	29

(3) 今後の進め方

平成28年度においても、引き続き、小・中・高等学校等、特に子どもたちを対象として「国際理解・国際交流プログラム」を実施し、「明日へつなぐ」取組としていく。

実施予定期間：平成28年6月6日～9月30日

実施予定回数：全30回（申込回数：56回）

2 子どもふるさとサミットについて

郷土学習・国際理解学習・環境学習の成果等について発表・交流を行う「子どもふるさとサミット」を開催した。

(1) 趣旨

伊勢志摩サミットを契機に、県内の各地域の小中学生が「郷土・国際理解・環境」をテーマに、「体感」「交流」「発信」を通して、郷土への愛着と誇りを持ち、異なる文化・伝統に立脚する人々と共生する態度を育む。

(2) 内容

○郷土・国際理解・環境学習や伝統芸能等の発表・資料展示

○サミット参加国に関する各校の取組のパネル展示

○意見交流、アピール宣言作成

(3) 開催日時・場所

平成28年5月14日 伊勢市生涯学習センター いせトピア

(4) 参加対象

県内の小中学校の児童生徒ほか（約430名）

(5) 参加市町（14市1町）

津市、四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、名張市、尾鷲市、
亀山市、鳥羽市、熊野市、いなべ市、志摩市、伊賀市、南伊勢町

3 三重の高校生サミットについて

県内の高校生等とジュニア・サミット参加者が、ジュニア・サミットのテーマ等に関する意見交換等を実施する「三重の高校生サミット」を開催する。

(1) 趣旨

これからの時代を担う高校生が、自らの考えや意見を適切に伝える力を身につけるとともに、刻々と変化する社会情勢等について深く考える契機とする。また、参加した生徒が、「三重の高校生サミット」で経験したことを各校に持ち帰り、リーダーシップを発揮して諸活動に反映させることにより、学習活動、生徒会活動、HR活動等、学校のあらゆる活動の活性化につなげる。

(2) 内容

テーマ：「次世代の地球に対する若者の提言」

＜第1部＞ 「ジュニア・サミット」日本代表及び同体験・交流行事参加者による報告、交流会、ワークショップ等

＜第2部＞ テーマに関するディスカッション及び提言の作成・発表

(3) 開催日・場所

平成28年6月5日 百五銀行丸之内本部棟

12日 三重県自治会館

(4) 参加対象

高校生ほか（100名程度）

「ジュニア・サミット」日本代表、同体験・交流行事参加者、国際地学オリンピック生徒実行委員、大学生、留学生、ALT、県外のサミット関連事業に参加した高校生等

4 大学生・留学生との交流事業について

(1) 目的

サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外の大学生や留学生等が三重に集い、県内の大学生や留学生等と共に、サミットに関係するテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催し、サミット開催地・三重県が次世代グローバル人材育成の地となることを目指す。

(2) 概要（予定）

サミット開催を機に、サミット開催地・三重県に、県外の大学生や留学生等を招へいし、県内の大学生や留学生等との討議や交流の機会を設ける。

①時期

平成28年8月末～9月初旬

※3泊4日程度を想定

②開催場所

伊勢市及び南伊勢町

③取組内容

- サミットのテーマ等に関する討議
- 討議に資する現場体験・学習
- 討議成果の発表 等

④参加者

- 首都圏を中心とする県外の大学生、大学院生、留学生
- 県内の大学生、大学院生、留学生

⑤参加人数

100名程度

平成28年5月17日
伊勢志摩サミット推進局
サミット開催支援課

住民懇話会等の開催結果について

1 実施日程・場所等

(1) 第1回住民懇話会 (計191名参加)

- 11月20日：南伊勢町 (32名参加)
- 11月28日：鳥羽市 (36名参加)
- 11月28日：志摩市 (38名参加)
- 12月10日：伊勢市 (85名参加)

(2) 第2回住民懇話会 (計684名参加)

- 2月7日：南伊勢町 (60名参加)
- 2月7日～27日：志摩市 (全9回) (計558名参加)
- 2月13日：伊勢市 (40名参加)
- 2月28日：鳥羽市 (26名参加)

(3) 第3回住民懇話会 (計221名参加)

- 4月29日：南伊勢町 (38名参加)
- 4月29日：伊勢市 (53名参加)
- 4月30日：志摩市 (100名参加)
- 4月30日：鳥羽市 (30名参加)

※第1回～第3回の住民懇話会において、合計延べ1,096名が参加

(4) その他 (住民を対象とした説明)

- 9月25日～5月8日：
伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町 (計14回) (5月11日現在、計830名参加)

2 参加機関

- (1) 三重県 (伊勢志摩サミット推進局、防災対策部、健康福祉部)
- (2) 三重県警察本部
- (3) 第四管区海上保安本部
- (4) 関係4市町 (伊勢市、鳥羽市、志摩市及び南伊勢町)

※ 防災対策部は第2回及び第3回、健康福祉部は第3回に出席。

3 説明内容

(1) 三重県

- ① 三重県が実施する伊勢志摩サミットに係る事業等の説明
- ② 伊勢志摩サミット開催期間中の消防体制等
- ③ 伊勢志摩サミット開催期間中の救急医療体制等

(2) 三重県警察、第四管区海上保安本部

- ①警備機関が実施する警備活動等の説明
- ②警備による住民生活（交通規制、海上警備等）への影響
- ③今後の警備方針

(3) 地元4市町

- ①各種イベントの実施計画
- ②警備への協力要請

4 主な要望・意見と対応状況

○交通規制情報等、住民生活への影響はどうか。

(対応状況) 警察からリーフレットが配布され、伊勢志摩サミット期間中の交通規制について説明がなされ、不安の払しょくが図られた。

○海上での警備による影響はどうか。

(対応状況) 海上保安庁からリーフレットが配布され、伊勢志摩サミット期間中の海上警備について説明がなされ、不安の払しょくが図られた。

○間崎島島民の生活への影響はどうか。

(対応状況) 間崎島を繰り返し訪問して、自治会長や住民からサミット開催に伴う疑問点等聞き、その結果について関係機関と情報共有し調整を図った。救急搬送については、地元消防と警備関係機関が調整を行い、平常どおりの対応となった。

○真珠養殖業への影響はどうか

(対応状況) 英虞湾内で操業する真珠組合や事業者を訪問し、聞き取りと説明を行った。その訪問結果を関係機関と情報共有し、警備関係機関により、漁業等の影響を最小限に留める措置がなされた。

○行政広報誌等についても啓発をしていただきたい。

(対応状況) 地元自治体の広報誌への住民懇話会の結果の掲載や、早急に周知が必要なことについては、チラシを各戸配布する等、対応を行った。

平成28年5月17日
伊勢志摩サミット推進局
サミット開催支援課

サミット開催に伴う規制等について

1 交通総量抑制対策について

伊勢志摩サミット三重県民会議及び三重県伊勢志摩サミット推進本部では、「テロ対策三重パートナーシップ推進会議」内の「伊勢志摩サミット交通対策推進ワーキンググループ」と連携して、以下のとおり、三重県内各路線における交通総量抑制対策に取り組んでいる。

(1) 対策期間

平成28年5月25日(水)～28日(土)

(2) 対策内容

①期間前「相互啓発の促進」

対策期間中における交通規制の実施、公共交通機関利用促進について、組織内外における周知徹底、自主的な広報に努める。

②期間中「交通総量抑制行動」

対策期間中の交通規制に伴う一般交通に対する影響を最小限にとどめるため、次のとおり交通総量抑制に取り組む。

ア) 不要不急の乗用車利用の自粛

イ) 通勤時等における公共交通機関利用の促進

ウ) 移動時の乗り合い乗車の促進

エ) 期間中における不要不急の会議、イベント等の自粛 等

(3) 企業・団体との連携の事例

公益社団法人三重県バス協会や乗合バス事業者と連携して、サミット開催期における「公共交通機関の利用」「マイカー利用の自粛」を促進するため、毎週水曜日に実施している「みえエコ通勤デー」をサミット期間中も特別実施することとしている。

○実施日：平成28年5月25日(水)～28日(土)

※サミット期間中の申込は、平成28年4月21日(木)に終了した。

※「みえエコ通勤デー」とは、自動車やバイクでの通勤から二酸化炭素排出の少ない交通手段であるバス等の公共交通機関による通勤へ転換を促す取組。普段、マイカーを使って通勤されている方が、エコパ(みえエコ通勤バス)の発行を受けた場合、毎週水曜日に県内路線バスを運賃の半額で利用できる。

2 公共交通機関の運休及び変更について

サミットの安全を確保するため、サミット期間は賢島周辺の公共交通機関が、以下のとおり一部運休または運航を変更する予定。

(1) 期間

平成 28 年 5 月 21 日（土）始発～平成 28 年 5 月 28 日（土）07:00

※ 各国首脳滞の滞在日程によっては、28 日（土）の運行再開時刻が後ろ倒しになる可能性がある。

(2) 運休・変更内容

① 鉄道・バス

- ・ 近畿日本鉄道（志摩線）の鵜方駅～賢島駅間の運休
- ・ 三重交通バス（59 系統）の鵜方駅～賢島駅間の運休
- ・ 伊勢志摩リゾートホテル直行バス「パールシャトル」の運休

※ 代替手段として、鵜方駅～賢島駅間を運行予定のサミットシャトルバス（外務省運用）が利用可能。

※ 賢島には、外務省発行の識別証をお持ちの方のみ入域可能。また、賢島の手前に設置されるセキュリティ・チェックポイントにて保安検査が実施される。

② あご湾定期船

- ・ 賢島～浜島航路：御座～賢島間の運休
- ・ 賢島～和具航路：賢島港に代わり、志摩地中海村のマリーナを発着場所に変更

※ 志摩地中海村～鵜方駅間はシャトルバスが運行される。

3 入域規制について

サミット開催に伴い、規制区域（賢島全域及び国際メディアセンター（IMC））に入域するには、識別証や車両証が必要になる。なお、賢島において、識別証は、賢島内の住民・勤務者の方々等を対象に発行される。

混雑緩和へのご協力のお願い

期間中は交通規制の影響等により、県内の主要道路（国道23号、1号など）の混雑が予想されます。ご迷惑をおかけいたしますが、混雑緩和にご協力ください。

公共交通機関の利用促進

期間中は鉄道、バス等の公共交通機関を利用することにより、混雑緩和にご協力ください。

マイカー利用の自粛

通勤、通学等の際にはマイカー利用を控え、又は相乗りを行うなどにより、混雑緩和にご協力ください。

事業用車両の運行調整

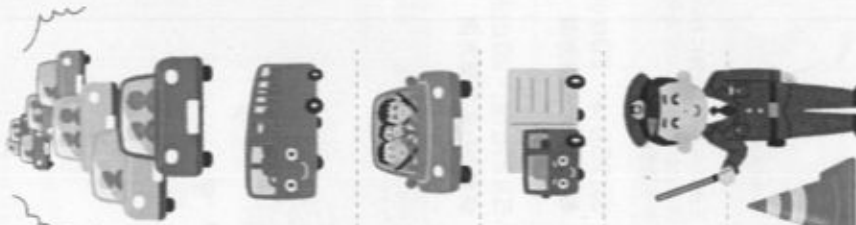
交通量がピークとなる朝夕の時間帯や交通規制が予想される日、程を外した運行を行うなどにより、混雑緩和にご協力ください。

関連地域への車両の乗り入れ自粛

会場及び国際メディアセンター周辺への車両の乗り入れを控えることにより、会場等周辺の混雑緩和にご協力ください。

交通規制、車両検問にご協力ください

交通規制に伴う現場警察官の誘導指示や車両検問にご協力ください。



交通情報に関するお問い合わせ先

- 日本道路交通情報センター
 - ☎ 030-3369-0624 (三重情報)
 - 🌐 <http://www.jartic.or.jp/>
- 三重県警察
 - ☎ 059-222-0110 (三重県警本部)
 - ☎ 059-256-3100 (三重県警交通情報)
 - ☎ 0596-20-0110 (伊勢警察署)
 - ☎ 0599-25-0110 (桑名警察署)
 - 🌐 <http://www.police.pref.mie.jp/>
- 日本高速道路株式会社
 - NEXCO(株)日本高速道路サービスセンター
 - ☎ 0120-922-229 (フリーダイヤル)
 - 上記電話番号ご利用できない場合は
 - ☎ 052-223-0333 (連絡センター)
 - 🌐 <http://www.o-nexco.co.jp/>

Twitterアカウントのお知らせ

🐦 日本道路交通情報センターと連携し、サミット開催に伴う高速道路の通行止情報やTwitterにより提供します。右記アカウントをフォローすることにより、情報を受信することができます。

アカウント名
サミット高速道路交通情報 (JARTIC)
アカウント
@sammit_jartic



※本欄はサミット期間中にのみ表示されます。

伊勢志摩サミット 交通規制のお知らせ

5月25日(水)～28日(土)

県内各地で一時的な交通規制を実施します。
混雑緩和にご協力をお願いします。



ご協力
よろしく
お願いします！



サミット開催期間 5月26日(木)・27日(金)



伊勢志摩サミット開催に伴う公共交通機関の運休及び変更について

平成28年4月15日

外務省

警察庁

国土交通省

海上保安庁

伊勢志摩サミット三重県民会議

近畿日本鉄道（株）

三重交通（株）

志摩マリンレジャー（株）

平成28年5月26日（木）～27日（金）三重県志摩市賢島において伊勢志摩サミットが開催されます。サミットの安全を確保するため、サミット期間は賢島周辺の公共交通機関は一部運休または運航を変更する予定ですので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

記

1. 期間

平成28年5月21日（土）始発 ～ 平成28年5月28日（土）07:00

（ただし、各国首脳の滞在日程によっては、28日（土）朝の運行再開時刻が後ろ倒しになる可能性があります。）

2. 運休・変更内容

(1) 鉄道

近畿日本鉄道（志摩線）の鵜方駅～賢島駅間を運休します。鵜方以北は通常運行いたします。

上記1と同期間について、鵜方駅～志摩神明駅～賢島駅の間を外務省運用のサミットシャトルバスが運行されますので、ご利用ください。スケジュール表は後日、各関係機関・公共交通機関のホームページまたは近畿日本鉄道の上記3駅に掲示いたします。

賢島には外務省発行の識別証をお持ちの方しか入ることができません。また、賢島の手前に設置されるセキュリティー・チェックポイントにて保安検査を受けていただくこととなります。

ご面倒をおかけして申し訳ございませんが、ご協力のほど宜しくをお願いいたします。

(2) 路線バス等

三重交通バス（59系統）の鵜方駅～賢島駅間を運休いたします。また、伊勢志摩近鉄リゾートホテル直行バス「パールシャトル」は運休いたします。鵜方駅～賢島駅間の移動は、上記2（1）のシャトルバスをご利用ください。

(3) あご湾定期船

ア 賢島～浜島航路

御座～賢島間を運休いたします。浜島～御座間は通常運航いたします。

イ 賢島～和具航路

賢島港に代わり、志摩地中海村（志摩市浜島町迫子 2619 番地 1）のマリーナを発着場所といたします。志摩地中海村からは鵜方駅までシャトルバスを運行します。時刻表は後日、各関係機関・公共交通機関のホームページ及び賢島港、間崎港に掲示いたします。

志摩神明駅方面にご用の方は、鵜方駅から上記2（1）のシャトルバスをご利用ください。

間崎島～和具間は通常運航いたします。

以上

平成28年5月17日

サミット開催に伴う県内学校における授業等の取扱いについて

1 県立学校

伊勢志摩地域の県立学校においては、児童生徒がスクールバス等を利用して広域に通学(※)しており、伊勢志摩サミット開催に伴い、県立学校における授業への影響が想定される。そのため、伊勢志摩・松阪地域の学校において、5月25日～27日(一部の学校は同月26日～27日)をそれぞれ休業日とし、主に夏季休業期間を短縮し、授業を実施する。

児童生徒、保護者には、各学校において年間行事予定表を配付する等、周知を行っている。

※高等学校では三重交通が運行するスクールバス12台、特別支援学校では独自に契約しているスクールバス4台を運行している。

(1) 休業する学校数及び休業日

県立高等学校(16校)

5月25日(水)～27日(金):3日間(10校)

5月26日(木)～27日(金):2日間(6校)

県立特別支援学校(2校)

5月25日(水)～27日(金):3日間(2校)

(2) 授業日の変更

授業時間確保の観点から、主に夏季休業期間を短縮し、授業を実施

2 公立小中学校(伊勢市、鳥羽市、志摩市及び南伊勢町)

(1) 公立小中学校における授業の取扱いについては、伊勢市の一部の学校を除いて、通常どおり授業を実施する。

伊勢市の一部の学校については、伊勢志摩サミット開催に伴い、二見町内の周辺施設等が、関係機関の施設として使用され、周辺の交通状況等から児童生徒の登下校の安全確保が非常に難しくなることが想定されることから、5月25日～27日をそれぞれ休業日とし、主に夏季休業期間を短縮し、授業を実施する。

① 休業する学校数及び休業日

公立小学校(1校:二見小学校)

5月25日(水)～27日(金):3日間

公立中学校(1校:二見中学校)

5月25日(水)～27日(金):3日間

② 授業日の変更

授業時間確保の観点から、夏季・冬季休業期間を短縮し、授業を実施

(2) 学校行事については、サミット開催期間等（5月25日～28日）に予定していた行事日程を変更している。

・学校行事（運動会）を日程変更する学校数

公立小学校21校、公立中学校8校

（内訳）伊勢市 小学校7校、中学校1校

鳥羽市 小学校2校

志摩市 小学校12校、中学校5校

南伊勢町 中学校2校

※志摩市については、5月9日～28日に予定していた行事日程を変更した学校数（志摩市が学校行事を実施しない期間と設定したことによる）

3 私立学校

私立学校においては、児童生徒が広域から通学しており、伊勢志摩サミット開催に伴う交通状況等から児童生徒の登下校の安全確保が非常に難しくなることが想定される学校においては、5月25日～27日（一部の学校は同月26日～27日）をそれぞれ休業日とし、主に夏季休業期間を短縮し、授業を実施する。

(1) 休業する学校数及び休業日

私立学校（5校）

5月25日（水）～27日（金）：3日間（2校）

皇學館中学校・高等学校、伊勢学園高等学校

5月26日（木）～27日（金）：2日間（4校）

海星中学校・高等学校、三重中学校・高等学校、一志学園高等学校、

皇學館大学

(2) 授業日の変更

・中学校及び高等学校においては、授業時間確保の観点から、主に夏季休業期間を短縮し、授業を実施

・大学においては、実施しなかった講義は、春学期中に実施

平成 28 年 5 月 17 日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

総務課、事業推進課

サミット終了時の県民等へのメッセージ発信について

1. メッセージの基本的な考え方

- ・伊勢志摩サミット終了後に、県民をはじめ様々なお支援・ご協力をいただいた幅広いステークホルダーのみなさまに対し、これまでのご支援やご協力に対する「御礼」と、サミット開催の受入・準備で培った数多くのレガシーを今後の三重県づくりに活かしてゆく「今後への呼びかけ・宣言」について、以下のメディアを通して県内に発信する。

2. メッセージ発信媒体と内容について

以下のように、ポスター・新聞・折込（県政だより）の 3 メディアを用いて、「御礼」と「今後に向けて」のメッセージを、同一コンセプトで貫くものとする。ただし、それぞれの媒体特性に応じた表現の調整を行っていく。

① 県民会議第 5 弾公式ポスター（最終版）

- ・ 5 月下旬にお披露目(予定)。
- ・ メッセージ+ボディコピーに加えて、県民の様々なサミット準備の活動や県民会議の取組を表現する写真素材の活用を中心としたデザインで構成。

② 新聞

- ・ サミット終了後、新聞各紙にメッセージ広告（有料）を掲載（東海版 朝刊 全 5 段 モノクロ）
- ・ メッセージ+ボディコピー+写真素材で構成。

③ 県政だより みえ 増刊号

- ・ 平成 28 年 6 月 26 日（日）折込予定
- ・ タブロイド判 2 ページ（表/裏）
- ・ メッセージ+ボディコピー+取組や活動の写真+写真の簡単な説明文で構成。

平成28年5月17日

協賛、応援、寄附の申込状況等について

協賛、応援、寄附の募集にかかる5月12日時点での申込状況は、下記のとおり。

協 賛			
178件（うち登録163件）			
申請の分類別内訳			
飲料の提供	19	クリーンアップ活動への参加	16
食品の提供	16	花いっぱい活動への参加	15
お菓子の提供	4	ポスター印刷費用の負担	17
物品の提供	51	外国語案内ボランティアの派遣	3
施設の貸与	8	その他	19
情報発信の協力	10		
協賛の主な活用事例			
<p>【開催150日前イベント(H27.12.27)】 松阪牛・いちご・バラの提供、まぐろ解体ショーの調理補助員の派遣等</p>			
<p>【第2回サミットフォーラム(H28.1.16)】 ボールペン・清涼飲料水・生け花の提供、会場の無償提供等</p>			
<p>【おもてなし大作戦キックオフイベント(H28.2.14)】 伊勢茶・ミネラルウォーター・清涼飲料水・振る舞いぜんざいの提供、ごみ袋・スタンド灰皿の提供等</p>			
<p>【花いっぱいスタートセレモニー(H28.4.2)】 しじみ等の提供及び振る舞いの調理員の派遣、菓子類・清涼飲料水・おにぎりの提供、会場の飾花及び講師の派遣等</p>			
<p>【第3回サミットフォーラム(H28.4.16)】 進捗管理システムの提供、エコグッズ・メモ帳・コスモス種子の提供、青さのり・伊勢茶の提供等</p>			
<p>【ジュニア・サミット(H28.4.22~28)】 海洋深層水・コーヒー・清涼飲料水・かぶせ茶・菓子類の提供、タオル・エコグッズ・メモ帳・シャンプー等の提供、施設の無償提供、救急箱の貸与等</p>			

応 援			
836件（うち登録819件）			
申請の分類別内訳			
ポスター掲示	130	応援商品	146
独自ポスター・看板	21	応援商品（売上一部寄附）	13
カウントダウン企画	36	応援ソング	6
記念キャンペーン	27	サミットPR	315
記念イベント・セミナー	103	三重の魅力発信	18
記念イベント（売上一部寄附）	2	その他	19

寄 附			
合計		975件	493,325,009円
内訳	法人		467,187,998円
	個人	一般	25,324,538円
		クラウドファンディング	812,473円

※ クラウドファンディングは、2月29日で募集を終了した。

※ 協賛、応援は、5月10日で募集を終了した。寄附は、引き続き5月31日まで募集している。

